

事業名称	福祉・教育及び青少年のためのアンサンブル演奏		
団体名 (構成人数)	木更津シニアアンサンブル「アクア」(24名)	代表者	津田 望
事業の必要性と 目的	<p>イ、高齢者施設での慰問演奏 2025年度は、高齢施設での演奏会は2回開催しました(2回目は3月下旬予定)。演奏時間は約1時間でしたが、利用者の方々は、職員が驚くくらいの反応が見られ、職員の方から「普段の作業やリハビリなどとは全く違う笑いや発声などがたくさん聞かれた」というコメントをたくさん頂きました。中には、涙を流して一緒に歌ったり、曲のリクエストをしたり、楽器に直接触れたと積極的に前へ来られるなど、能動的な行動には、職員の方も楽団員もとても驚き喜びました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者への音楽の効用： 高齢者への音楽導入のリハビリや健康増進の有効性は世界的に認知されており、特に広い意味での音楽療法は、ADL向上や認知機能の改善、身体的・精神的な健康を取り戻すなど、多領域において有効性が高いとのエビデンスが多く出されています。高齢者施設では、日常生活動作の指導に音楽を取り入れながらの指導の方が、掛け声だけで行うリハビリより数段学習効果が高いと言われています。また静かに音楽を傾聴することにより精神的安定性を取り戻し、認知症の予防や治療にも有効であるとも言われています。通常はCDが良く使われますが、生の楽器演奏の方が何倍もの効果が得られることは実証されています。 ・高齢施設での音楽活動参加の現況 高齢者の場合も障がいの人たちと同様に、音楽を聴きにホールへ出かけていくことの困難な状況は顕著です。抱える疾病や感染症への配慮や、歩行が難しい高齢者の外出そのものに危険性が高く、リスク管理のための事前準備に膨大な時間が必要となります。かかる人的問題等々を考えると、現行の施設入所の高齢者が音楽を聴きに外出することはなかなかできていません。特にコロナ禍では更に多くのセラピーや活動自体も自粛され、当然音楽活動も少なくなり、閉ざされた高齢施設の認知症発症率も上がったと言われています。 ・来年度の活動 私たちは、今年度のいい経験を元に、できるだけ多くの施設へ出向いて高齢者に寄り添った演奏の企画を実行したと思っています。高齢者の好きな歌謡曲や昔の流行歌などを広くレパートリーに取り入れ、音楽を聴き一緒に歌えるコンサートを企画する予定です。 <p>ウ、児童養護施設でのお楽しみ演奏会 2025年度は児童養護施設での2度目のコンサートが実現しました。あまり外に音楽を聴きに行く機会がないその施設では、最初は子ども達の反応は低く警戒している様子が見られました。しかし時間と共に、自主的に前へ出てきてダンスを踊ったり、楽器紹介では実際に楽器に触れたり吹いたり、音が出ると「わー」と感嘆の声を上げるなどとても素直で明るい反応がたくさん見られ私たちも感動しました。</p>		
審査基準： 「公益性」			

事業名称	福祉・教育及び青少年のためのアンサンブル演奏		
団体名 (構成人数)	木更津シニアアンサンブル「アクア」(24名)	代表者	津田 望
事業の必要性と 目的	<p>・児童養護施設の現況 近年、家族間の問題や劣悪な環境で生活改善が難しい家族から子どもを一時的または永続的に離し、児童養護施設へ入所する児童が急増しています。施設内では多くの子どもたちは、個室やプライバシーが保てない大集団で生活していることが多く、そのため個人の気分転換やレクリエーションも難しい状況下、施設内で子ども達はぎくしゃくした人間関係やコミュニケーションを構築していることが多いと報告されています。そのために子どもたちの多くは、精神スタビリティが保てない、恒常的に不安定な精神症状などの問題を持ちやすいという症例が挙げられています。施設のような大集団の生活では、通常多くの若者がするように、気分転換に自由に音楽を聴いたり、コンサートに外出をすることや好きな音楽に合わせて歌ったり踊ったりすることができにくい環境下の長い生活が与儀なくされているからでしょう。</p> <p>・児童養護施設でのコンサート開催の必要性 コンサート会場へ行かれないという現状を踏まえて、こちらから出向いてその施設内でのコンサートを開催することは、入居児のニーズに叶ったものであると思います。会場そのものが生活の場であり、安心した環境で親しんだ職員や友人と共に音楽に触れ、みんなで楽しめるような楽曲を多くレパートリーに取り入れ、演奏を聴いたり歌ったりダンスができるような明るいコンサートを企画し、生の音楽に身近に触れ、一緒に楽しめるコンサート開催の企画をしたいと思います。</p> <p>エ、小学校での教育を目的とした演奏会 2025年度は、巖根小学校への慰問演奏を行いました。全校生徒600数十名が体育館に集まり、最後まで約45分の演奏を、時には手拍子をしながらか、また体をリズムに合わせて動かしたり、楽しそうに聴いてくれました。最後に先生から、普段生の楽器の音をあまり聴く機会がないので、みんな生音にビックリしていましたが、段々音楽</p> <p>・学校での音楽授業の現況 最近の小中学校の音楽では、生の音楽を鑑賞することがあまりないそうです。実際音楽鑑賞の時間であってもCDで行うことが通常であり、生の楽器や音楽を聴くことも触れる機会も少ないと聞きました。CDで聴く音楽は、実際の演奏の音楽とは根底から異なるものであり、本当の音楽の感動は、人が演奏する生の楽器が奏でる音楽によるものだ、という体験をしている児童生徒が非常に少ないと思います。</p> <p>小学校への慰問演奏をすることで、CDと生音の違いを体感していただき、幼少期の大切な時に生の音の素晴らしさを実感・体験してもらいたいと思います。同時に、それぞれの楽器の音の違いやその特性を知り、実際に楽器に触ってもらうなど、将来さらに楽器や音楽に興味を持ってもらえるような企画を考えています。</p> <p>オ、(地域での) 定期演奏会の開催 これまで述べてきた慰問演奏の企画は、限られた方々への演奏です。しかし私たちはこの地域に根差し、この地域の方々のためにも、練習し鍛錬してきた曲を発表する機会を企画したいと思います。</p> <p>・定期演奏会の開催の大切さ 毎年1回総結集の定期演奏会を開催し、地域の老若男女どなたにでも聴いていただけるコンサートを開催したいと考えています。地域での演奏会の意味は・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近で不特定多数、幅広い年送の方々に聴いて頂くことは、私たち自身の励みである。 ・このような活動を平均70才以上シニアがおこなっていることのアピール ・現在音楽活動を希望されているシニアの方々へ参加を促す良い機会である。 ・1年間の練習の総まとめ <p>シニアの繋がりを音楽を通して作り上げ、楽しい老後を実現できることを知っていただきたいと思います。それが高齢者の福祉へ通じ、また高齢者や障害児者をもつ家族支援にもなり、地域貢献へと広がっていくのではないかと考えています。</p>		
審査基準： 「公益性」			

事業名称	福祉・教育及び青少年のためのアンサンブル演奏		
団体名 (構成人数)	木更津シニアアンサンブル「アクア」(24名)	代表者	津田 望
スケジュール	①6月：高齢者施設、②9月：児童養護施設 ③12月：障がい児施設、④12月：障がい者施設 ⑤2月11日：第4回定期演奏会、⑥3月：高齢者の集い「わかば会」：八幡台公民館		
審査基準： 「実現性」			
事業の特色	<p>高齢者がアンサンブルをすることにより・・・</p> <p>①活動の内部的意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的孤立化を防ぐ ・音楽を通してコミュニケーションを深める ・楽器演奏や楽譜を読むことによる認知症の予防 ・音楽による心身の癒し効果 ・練習のために外出することによる健康維持 ・社会的繋がりを得ることで、友好関係を広げ互助の豊かさを知る <p>慰問演奏をすることによって・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏を喜んでいただけることで、生きがいになる ・これまで知らなかった環境にある子どもや人々に出会う ・演奏を通じて自己有用感をもつ <p>②活動の外部的意味</p> <p>実際にコンサート会場で出向くことが難しい人々・子どものために、こちらから出向いて演奏することにより、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの音楽に触れる機会を与える、 ・心の平安を与える ・高齢者が音楽を奏でている姿を見ることで、動き出す勇気を感じて欲しい 		
来年度以降の 事業展開予定	<p>地域の新たな慰問演奏先を発掘し、市内の出来るだけ多くの福祉施設や医療機関などにアプローチする予定です。今後は、入場料を頂く、また賛助会員を募るなどして活動資金を得ていく予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の運営費確保のために、更に広く賛助会員を募る：今年度は5人以上の賛助会員登録がありました。今後更に多くの賛助会員を募る予定です。 ・来年度の活動内容の方向 <p>今年度は活動の幅を増やすために、年間8回のコンサートを開催しました。それに叶うように曲目を増やすための練習、コンサート開催準備、編曲依頼のための人脈拡大の活動等々で、かなりの時間を費やしましたが、来年度は持ち曲を更にブラッシュアップして、より質の高い演奏技術の習得や演奏構成になるように努力したいと考えています。</p>		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	<p>5月10日：木更津市文化協会総会オープニング演奏 10月19日：野の花の家（児童養護施設） 11月23日：木更津市文化協会主催第1回音楽祭参加 11月26日：巖根小学校 12月10日（午前）：のぞみ牧場学園（障がい児施設） 12月10日（午後）：のぞみワークショップ（障がい者施設） 2月11日：第3回定期演奏会 3月27日：若葉会（高齢者の集い）</p>		

令和8年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 1

事業名称	福祉・教育及び青少年のためのアンサンブル演奏		
団体名 (構成人数)	木更津シニアアンサンブル「アクア」(24名)	代表者	津田 望

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		報償費	552,000	定例指導料 12,000×36回 演奏会指導 20,000×6回
自己資金	355,000	会費、入会費、賛 助会費等	旅費	118,000	3,000×36 全シ連理事会出席 旅費 2,500×4
			委託費	150,000	編曲代 15,000円×10曲
			印刷製本費	20,000	チラシ、ポス ター、譜面コピー 代等
			通信運搬費	5,000	切手等郵送費
			消耗品費	10,000	ペン、テープ、領 収書等
合計	855,000		合計	855,000	

事業名称	動物や植物と共存を図る法面管理		
団体名 (構成人数)	八幡台自治会5区法面管理チーム(17名)	代表者	谷口 登
事業の内容 審査基準： 「公益性・実現性」	1. 人の手が入らなくなった里山の管理 ①土砂の流出や崖崩れを防止するための樹木および草の処理 ②獣のすみかとなっている竹やぶの除去 ③倒木や枯れ木の原因となるつる性植物の除去 2. 人や地域環境を阻害する植物の管理 ①アレルギーとなる外来植物の除去 ②獣のエサとなりうる植物の除去 3. 獣害軽減対策の管理 ①物理柵の設置および維持管理 ②有害鳥獣駆除員との連携支援 4. 法面省力管理の開発		
事業の必要性と目的 審査基準： 「公益性」	1. 自治会の現状 当自治会は丘陵地に位置し、周囲のすべてが傾斜地である。会員の高齢化が進む中、法面管理は大きな負担となっている。 2. 法面における被害の増加 近年、法面には多くの獣が出没し、住宅地の道路でも目撃されている穴掘りによる被害だけではなく、菜園の荒らしや土砂流出などの被害も増加している。 3. チーム立ち上げの経緯 危機意識の高まりを受け、住民が自発的にチームを編成し、竹やぶの除去と草刈り作業から活動を開始した。 4. 作業軽減への取り組み 若手チーム員を中心に、機械操作と草木の収集作業を2日に分けて実施したことで、作業負担の軽減につながった。 5. 竹やぶ管理の現状 機具類が不足する中、人力で竹やぶの管理を行っているが、現在のところ獣の出没は確認されていない。 6. 今後の方針 今後は機具の導入により、作業の効率化と安全性の向上を図り、より適切な管理体制を整えていきたい。 7. ゴミ対策 除去された草木や竹などのゴミ処理については、市と連携しながら対応していく予定である。		

事業名称	動物や植物と共存を図る法面管理		
団体名 (構成人数)	八幡台自治会5区法面管理チーム(17名)	代表者	谷口 登
スケジュール	4/26：年間計画説明、アレルゲン植物除去 5/17：一斉清掃前週草払い 5/24：一斉清掃 9/27：夏草、つる性植物除去 10/25：竹やぶ除去 11/8：一斉清掃前週草払い 11/15：一斉清掃（落ち葉ブロー対応） 12/13：竹やぶ除去 12/20：反省会、計画案検討 ※定例外作業項目 ① 管理区域の特定および境界線の見える化。 ② 獣の頭数削減に向けた有害鳥獣特別駆除隊員（ハンター）への支援（米ぬかの安定供給） ③ 箱ワナ設置区域への進入路整備の支援。 ④ 鳥獣被害が発生した際の緊急対応など、随時の対応を行う。		
事業の特色	1. 自治会員には、法面管理や獣害対策に精通した人材がいる。 2. 専門家による声掛けにより、若い人材の確保が進んでいる。 3. 会員にはハンターや住宅地開発関係者も加わり、支援体制が整っている。 4. 年齢や経験の差はあるものの、未知への挑戦に向けて、コミュニケーションと技術・知識力向上を意識した活動を行っている。 5. 獣害発生情報の共有と連絡体制の強化のため、LINEを活用している。 6. 自治会役員には活動報告書を通じて情報共有を図っている。		
来年度以降の事業展開予定	1. 竹やぶの境界線の確定。 2. 竹やぶ除去モデル地域における継続的な観察。 3. 除去跡地における省力管理技術の実証。 4. 除去後に発生するゴミの効率的な処分方法に関する協議。 5. モデル地外の竹やぶ実態調査。 6. 調査結果に基づく竹やぶ等の除去戦略の策定。 7. モデル地域外における竹やぶ除去。 8. 5区以外への活動実績の報告および提案。 9. 法面における省力管理技術の確立と普及。		
過去の活動実績	① 5/18：発会式、イノシシ被害状況確認（11名参加） ② 5/24：法面No1～5の除草作業（8名参加） ③ 7/17：イノシシ被害状況調査、竹伐採（大作公園）（5名参加） ④ 8/23：イノシシ被害対策工事内容現地確認（8名参加） ⑤ 10/18：第4回法面清掃、5区法面全般（一斉清掃前日）（10名参加） ⑥ 11/8：第5回法面清掃、No3倉庫前雑草、笹竹伐採（6名参加） ⑦ 12/13：第6回法面清掃、No3倉庫前笹竹掃除（3hr）（11名参加） ⑧ 12/18：イノシシ箱ワナ設置箇所現地確認（4名参加） ⑨ 1/17：イノシシ箱ワナ設置箇所整枝・草刈り（6名参加） ⑩ 1/24：法面No3笹竹伐採・立ち入り禁止テープ表示（6名参加）		

事業名称	動物や植物と共存を図る法面管理		
団体名 (構成人数)	八幡台自治会5区法面管理チーム(17名)	代表者	谷口 登

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	310,000		備品購入費	300,000	チェーンソー、プロ ワー、作業安全保護 具一式、電動ハサ ミ、台車等
自己資金	105,000		消耗品費	100,000	替え刃等
寄付金	50,000		原材料費	15,000	雑草抑制芝草 (センチピードグラ ス種)
			賃借料	50,000	軽トラック
合計	465,000		合計	465,000	

<p>事業名称</p>	<p>木更津市内の地域猫活動の普及啓発と正しい猫の飼い方の情報発信事業</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>木更津市地域猫活動団体連絡協議会(12名)</p>	<p>代表者</p>	<p>間瀬 節子</p>
<p>事業の内容</p>	<p>木更津市内における地域猫活動が行いやすくなるように普及事業を行うとともに、各グループで抱える課題を共有し活動内容の向上を図り、よりよい活動・制度になるように担当課と協議を行う。</p> <p>◆令和8年度事業予定 (1)総会、定例会の開催 (2)「猫のあれこれ相談会」偶数月第三日曜日に開催 (3)猫の捕獲器貸出事業 (4)持続可能な団体運営を行うための資金作り活動 (5)地域猫活動を普及させるためのセミナー開催</p>		
<p>事業の必要性と目的</p>	<p>【必要性】 木更津市では、猫に関するトラブルを減らすための手段として地域猫活動を推進している。木更津市が地域猫活動の事業を開始してから6年経過し、市内では地域住民のみならずの理解を得て14ヶ所の地域で取り組みが実践されており、実際に野良猫の数の減少が実現されている。地域猫活動の目的は猫の繁殖を止めたり苦情を軽減する活動を行ったりすることで「住みやすい街」を作ることであり、全ての地域住民にとって公益性の高い事業である。活動の必要性はますます増加しており、新規グループがより活動しやすい環境作りが必要となっている。</p> <p>【目的】 ①専門知識を有する千葉県動物愛護推進員が在籍し、スムーズに活動を行うためのコツや猫との関わり方、地域の方々へ理解を得るための方法等の情報を発信すること。また、それらに関連するセミナーを開催すること。 ②実際に活動を行うグループの困りごと（捕獲に苦勞する猫の捕獲方法や啓発資料の提供など）の相談に乗ること。 ③持続可能な活動となるため資金作りを行うこと。</p>		
<p>スケジュール</p>	<p>(1)総会 6月、定例会 9月、3月 (2)「猫のあれこれ相談会」 4月、6月、8月、10月、12月、2月（場所：きさらづみらいラボ） (3)猫の捕獲器貸出事業：年間を通して行う (4)資金作り活動①オーガニックシティフェスティバル出店、②SUZURIを活用したオリジナルグッズ販売、③手作り猫のおもちゃの販売、④イオンモール動物愛護週間のイベント出店 (5)セミナー開催 外部講師を招聘して①「猫の捕まえ方」に関するセミナーを行う②「地域猫活動とは」に関するセミナーを行う</p>		

事業名称	木更津市内の地域猫活動の普及啓発と正しい猫の飼い方の情報発信事業		
団体名 (構成人数)	木更津市地域猫活動団体連絡協議会(12名)	代表者	間瀬 節子
事業の特色	<p>〈地域社会への貢献〉 猫に関わる問題を抱えている住民は様々な立場の人がいる。地域猫活動では、まず活動範囲にお住まいの住民の方へ猫に関する困りごとがないか、地域猫活動のニーズがあるかどうかアンケート調査を行う。猫の繁殖に困っている住民だけでなく、猫による糞尿被害、騒音被害にあっている住民のみなさまからも活動の必要性を訴えられることは少なくなく、活動への賛同を頂いている。</p> <p>〈活動者への支援〉 地域猫活動を行うために、猫に関する専門知識を有するものからのアドバイスが必要になり、協議会の千葉県動物愛護推進員のメンバーが対応している。また実際に活動を行う上で住民説明会へ参加したり、捕獲作業へ同行している。さらにこの捕獲作業では市で貸し出ししている捕獲器のみでは数が不足したり捕獲が困難な場合があるので、それを補うためにリモコン式捕獲器などを購入、貸与することでよりスムーズな活動となるよう支援している。</p> <p>〈猫問題を抱える住民の孤立化防止〉 地域猫活動のニーズがある地域には、人に相談できず多頭の猫を抱えてしまっている住民がいる。地域猫活動を行うことにより、こういった猫問題を抱える住民の顔見知りや身近な相談窓口になることで孤立化を防止する側面もある。また猫が増える前に適切に相談出来ることは、問題の早期発見に繋がり、猫の爆発的な増加を食い止める手段としても有効である。 定期開催している「猫のあれこれ相談会」では広く市民からの猫の困りごと相談に乗ると共に、協議会員同士が活動における知識や経験を情報共有することで活動内容の向上を図っている。</p>		
来年度以降の 事業展開予定	今年度と同様の事業を継続する予定。		
過去の活動実績	<p>木更津市内の複数の地域猫活動グループが情報共有を目的に連携し、令和6年発足した。千葉県動物愛護推進員が3名在籍している。</p> <p>◎Instagramにて地域猫活動や猫の飼い方、野良猫との関わり方等について情報発信を行う。(アカウントkisarazu.nekoren)</p> <p>◎どなたでも参加可能な「みんなで猫会議」を開催し猫相談に応じる。</p> <p>◎令和7年度木更津市主催「わんちゃん、ねこちゃんの動物愛護週間のイベント」参加。</p> <p>◎令和6年度、令和7年度「オーガニックシティフェスティバル」参加。</p> <p>◎令和6年度に市民会館で開催された「地域猫活動セミナー」で事例発表。</p> <p>◎地域猫活動の内容を知って頂くためのチラシや糞尿被害対策に関するチラシなどを作成し、必要とされる方々に配布。</p>		

事業名称	木更津市内の地域猫活動の普及啓発と正しい猫の飼い方の情報発信事業		
団体名 (構成人数)	木更津市地域猫活動団体連絡協議会(12名)	代表者	間瀬 節子

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	160,000		報償費	45,000	外部講師謝礼
自己資金	44,000		使用料	5,000	会場使用料
会費	6,000		印刷費	50,000	学校回覧、啓発チ ラシ等
グッズ売上	30,000		備品購入費	70,000	リモコン式 TORASUKE 木製捕 獲機
			消耗品費	30,000	忌避剤、ペット シート
			出店料	10,000	オーガニックシ ティフェスティバ ル
			材料費	30,000	グッズ製作
合計	240,000		合計	240,000	

事業名称	そうだね内房（家族交流相談学習会）		
団体名 （構成人数）	そうだね内房（家族交流相談学習会）（7名）	代表者	西村 雅孝
事業の内容 審査基準： 「公益性・実現性」	<p>1 社会と関わりづらい、学校に登校しづらいなどで悩んでいる当事者のいらっしゃるご家族を支援する。</p> <p>2 一人ひとりの特性を認め合って誰もが生きていくことのできる社会を目指す。</p> <p>(1) 会員相互の語り合う場 情報交換の場 そうだね会（家族交流相談学習会）の開催</p> <p>(2) 関係機関（行政、医療、支援機関等）との連携</p>		
事業の必要性と 目的 審査基準： 「公益性」	<p>内閣府調査によると全国で15歳から64歳までの年齢層の2%余りに上る146万人（内閣府2022年11月実施アンケート調査）の皆様がひきこもり状態にあります。また、不登校児童生徒数は、全国で約34万6千人、高校6万8770人（令和5年度文部科学省による）</p> <p>自宅等でひきこもる当事者の方々への支援を、どうするかということが大きな課題なのではないでしょうか。</p> <p>また、不登校が長期化した場合についても同様のことが言えます。様々な課題が出てきます。ご家族（保護者）の中には、相談する場がなく、ご自身が孤立化してしまう事例も見られます。中には、お子さんのためにやむなく職場を退職、転職をされる事例も出てきます。</p> <p>このような現状から、当事者がいらっしゃるご家族の相談の場、情報交換の場、学びの場を提供することを目的としています。</p>		
スケジュール 審査基準： 「実現性」	<p>令和8年</p> <p>4月4日（土） そうだね会（家族交流相談学習会） 第19回 家族教室第3回</p> <p>5月2日（土） そうだね会（家族交流相談学習会） 第20回</p> <p>6月6日（土） そうだね会（家族交流相談学習会） 第21回 家族教室第4回</p> <p>7月4日（土） そうだね会（家族交流相談学習会） 第22回事例検討会第4回</p> <p>9月5日（土） そうだね会（家族交流相談学習会） 第23回 家族教室第6回</p> <p>10月3日（土） そうだね会（家族交流相談学習会） 第24回</p> <p>11月7日（土） そうだね会（家族交流相談学習会） 第25回 家族教室第7回</p> <p>12月5日（土） そうだね会（家族交流相談学習会） 第26回事例検討会第5回</p> <p>令和9年</p> <p>1月9日（土） そうだね会（家族交流相談学習会） 第27回</p> <p>2月6日（土） そうだね会（家族交流相談学習会） 第28回 家族教室第8回</p> <p>3月6日（土） そうだね会（家族交流相談学習会） 第29回</p>		

事業名称	そうだね内房（家族交流相談学習会）		
団体名 （構成人数）	そうだね内房（家族交流相談学習会）（7名）	代表者	西村 雅孝
事業の特色 審査基準： 「独創性」	1 毎月一回そうだね会（家族交流相談学習会）を開催 ※個別相談随時開催 代表 日本心理学会認定心理士（教育学修士） 西村 雅孝 2 千葉県公認心理師協会による支援（令和7年度は4回） 家族教室開催 講師 千葉県精神保健福祉センター 公認心理師 原島あゆみ先生 事例検討会開催 講師 ちば南部地域若者サポートステーション 公認心理師 大竹保仁先生 3 君津地域中核地域生活支援センター（君津ふくしネット）による支援 精神保健福祉士等による助言 4 関係支援機関との連携 木更津市市民活動センター木更津みらいラボ 木更津市福祉協議会登録ボランティア団体 木更津市福祉部・教育委員会 袖ヶ浦市ひきこもり支援関係ネットワーク（袖ヶ浦市福祉部） 千葉県精神保健福祉センター（千葉市美浜区） NPO法人なの花会（千葉市） NPO法人安房の風（館山市） NPO法人アーモンドコミュニティネットワーク（横浜市都筑区） ※上記NPOは社会的ひきこもり、不登校等の当事者及びご家族の支援団体		
来年度以降の 事業展開予定 審査基準： 「発展性・自立性」	令和8年度と同じく毎月第1土曜日に「そうだね会（家族交流相談学習会）」を開催 予定		
過去の活動実績	令和7年（2025年12月までの活動実績（※令和6年6月活動開始） 毎月第一土曜日午後2:00～3:30そうだね会（家族交流相談学習会）計16回開催 ① そうだね会（家族交流相談学習会）参加延べ人数 101名 ② メール、電話等での相談延べ件数 65件 ③ 希望家族個別相談延べ 13件		

令和8年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 4

事業名称	そうだね内房（家族交流相談学習会）		
団体名 （構成人数）	そうだね内房（家族交流相談学習会）（7名）	代表者	西村 雅孝

収支予算書

収入項目	金額（円）	備考	支出項目	金額（円）	備考
協働のまちづくり 活動支援金	160,000		報償費	70,000	講師謝礼 協力者謝礼
寄付金	80,000		旅費	20,000	講師交通費
			消耗品費	30,000	インク代、事務用品、 用紙代
			印刷製本費	50,000	ポスター、チラシ 等の作成費
			通信運搬費	40,000	切手代、はがき代 郵送費
			使用料・賃借料	30,000	会場使用料、音響 機材等の賃借料
合計	240,000		合計	240,000	

事業名称	木更津プリンフェスティバル		
団体名 (構成人数)	木更津プリンフェスティバル実行委員会(5名)	代表者	野口 利一
事業の内容 審査基準： 「公益性・実現性」	・毎年1回(暫定)のイベント(木更津プリンフェスティバル)開催		
事業の必要性と 目的 審査基準： 「公益性」	<p>目的：プリンフェスティバルをきっかけに市内はもちろん市外、県外からの人口流入を増やし、木更津地域の魅力、木更津、近隣地域からの参加店様の魅力を知っていただくことで、その後の木更津を中心とした近隣地域に対するアクセスを促し、地域活性化への貢献を目的としています。</p> <p>第一回と第二回の開催で累計約10,000人を超える方に来場していただくことができました。実行委員会だけでなく、参加店様や木更津市内様々な方々にご協力いただきながら、イベントの回数を重ね、木更津といえばプリンとなるような地域の一体感を作り上げることで目的達成を目指しています。</p> <p>必要性：イベントの開催や通年のプリンマップなどの施策により、参加店舗様へのお客様の導線をサポートすることで参加店様の売り上げ増加、また、市内、近隣住民の皆様への外出先のご提案をすることで地域活性化に貢献できると考えております。</p> <p>また、第二回は学生の参加により、第一回よりも市民や市街の方々の交流がより発展しました。令和9年度以降の駅前通りの完成後などに富士見通りでイベントの開催ができれば、市民の皆様へ新しい木更津のイメージや、参加していただく事業者様にも富士見通りでのテナント利用イメージをより強くしていただくなど、木更津市の課題でもある市内への回遊のきっかけづくりにも貢献できると考えております。</p>		
スケジュール 審査基準： 「実現性」	4月～ イベント参加店舗、ボランティアスタッフ募集開始 10月、11月 イベント開催(会場スケジュールにより前後)		
事業の特色 審査基準： 「独創性」	木更津を盛り上げていきたいという木更津市の事業者様やボランティアスタッフを中心としたイベント運営、近隣地域の参加店様と来場者様の参加型のイベントとなっており、双方が地域の魅力を感じながら地域の未来をイメージできるイベントになっています。		
来年度以降の 事業展開予定 審査基準： 「発展性・自立性」	イベントの定期開催 プリンマップによる、参加店様の案内 参加店様への流入の創出		
過去の活動実績	第一回、第二回で累計10,000人以上の来場 学生とのコラボ		

令和8年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 5

事業名称	木更津プリンフェスティバル		
団体名 (構成人数)	木更津プリンフェスティバル実行委員会(5名)	代表者	野口 利一

収支予算書

収入項目	金額(円)	備考	支出項目	金額(円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		会場利用料	200,000	イベント会場、駐 車場、トイレ
イベント出店料	300,000	参加費1.5万円× 20店舗	備品購入、レンタル費	250,000	備品、設備関連
			イベント販促物	350,000	集客用販促物、当 日のマップや掲示 物など
合計	800,000		合計	800,000	

<p>事業名称</p>	<p>かずさ防災キャンプ</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>一般社団法人かずさ青年会議所(20名)</p>	<p>代表者</p>	<p>春口 有紀</p>
<p>事業の内容</p>	<p>本事業は、7月に開催予定の防災キャンプを「デジタル技術を活用した被災疑似体験」と「多世代協働の実践キャンプ」とし、地域防災への関心を高めることを目的とします。 1. デジタル被災体験シミュレーション: 防災アプリやSNSを活用し、木更津市のハザードマップに基づいた「避難勧告の受信」から「安否確認」までの一連の流れを、スマホ上で疑似体験します。 2. 多世代協働防災キャンプ: 夜間をまたぐキャンプ形式の中で、若者のデジタル知識と高齢者の地域知識を合わせ、避難所での共同生活を想定した実技訓練(簡易ベッド作成や炊き出し等)を実施します。</p>		
<p>事業の必要性と目的</p>	<p>1. 事業の必要性 木更津市においては、地域コミュニティの高齢化・希薄化が進行しており、特に次代を担う若年層が主体的にまちづくりへ参画する機会が不足しています。この現状は、地域の持続的な発展に向けた新たなアイデアや活力を生み出す上での大きな課題となっています。 地域が抱える課題(福祉、環境、教育など)に対し、既存の団体や行政だけでなく、新しい担い手が積極的な一歩を踏み出すための「きっかけ」と「実践の場」を提供することが急務です。</p> <p>2. 事業の目的 本事業は、以下の二点を主要な目的とします。 (1) 次世代の地域活動担い手の育成 地域課題をテーマとした実践的なプログラムや多世代交流の場を提供することで、青少年の地域に対する当事者意識と行動力を養成します。これにより、将来にわたって地域活動を支え、協働のまちづくりを推進する新たな担い手を創出します。 (2) 地域活力の再創出と課題解決の推進 多様な世代・団体との協働を通じて、地域に眠る潜在的なエネルギーを呼び起こし、交流人口の増加や地域経済の活性化に貢献します。長年にわたり地域行事の創設・運営に携わってきた当団体の実績とネットワークを最大限に活かし、地域課題の解決に寄与する活動を持続可能な形で実現します。</p>		
<p>スケジュール</p>	<p>5月 準備・企画会議 プログラム詳細設計、協力団体(自治会、学校、消防など)への協力依頼書の作成、広報用チラシデザイン発注。 6月 広報活動と参加者募集 市内全域へのチラシ配布、SNSや地域メディアを通じた広報展開、参加者受付開始。防災アプリの選定と学習。 7月 事業実施(防災キャンプ本番) 事業実施: 午前中に座学(地域のハザードマップ学習)、午後の実技(多世代合同でのデジタル連携訓練)、夜間に避難所体験。実施後のアンケート回収。 9月 報告書の作成と評価 実施結果の集計、反省点と今後の課題の整理、支援事業への報告書作成。 10月 防災キャンプに参加した学生と木更津市議会議員との討論会 地域の防災に関する政策、まちづくりへの要望を整え、市への要望をまとめた提言書として提出</p>		

<p>事業名称</p>	<p>かずさ防災キャンプ</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>一般社団法人かずさ青年会議所(20名)</p>	<p>代表者</p>	<p>春口 有紀</p>
<p>事業の特色</p> <p>審査基準： 「独創性」</p>	<p>○デジタル×経験知の融合： ・若年層が持つSNSや防災アプリなどのデジタルリテラシーと、高齢者が持つ地域の地理的リスクや過去の災害経験を組み合わせた訓練を初めて実施します。これにより、全ての世代が災害時に互いの知識を活かして協働できる体制を構築します。</p> <p>○実践的な「行動」への昇華： ・単なる座学ではなく、地域住民と協働して夜間の避難所運営シミュレーションや、デジタルツールを使った安否確認・情報共有訓練など、実践的な活動を組み込みます。これにより、訓練後も参加者が地域防災の担い手としての意識を持続できるように促します。</p> <p>○地域活動のプラットフォーム化： ・青年会議所がハブとなり、自治会、消防団、地元企業（備蓄品提供など）、学校といった多様な主体が協働する場を提供することで、地域全体の防災力向上という公益性の最大化を目指します。</p>		
<p>来年度以降の 事業展開予定</p> <p>審査基準： 「発展性・自立性」</p>	<p>1. プログラムの標準化と横展開（2年目） ・初年度の成果と反省点を基に、訓練プログラムをパッケージ化し、市内の他の地区の自治会や学校にも無償でノウハウを提供します。また、他の市民団体との協働を強化し、運営の自立化を目指します。</p> <p>2. 地域防災リーダー養成への発展（3年目以降） ・訓練参加者の中から、地域で積極的に活動できる「デジタル防災リーダー」を認定・育成する体制を構築します。これにより、青年会議所の支援がなくても、地域住民自身が主体となって防災訓練を企画・実施できる自立した仕組みを確立します。</p> <p>3. 地域企業との連携強化 ・訓練に必要な物品や会場提供について、地域企業からの協賛・協力を得るルートを確立し、支援金に依存しない安定的な運営基盤を築きます。</p>		
<p>過去の活動実績</p>	<p>当団体は、1974年に創設された地域で最も歴史ある市民活動団体の一つとして、長年にわたり地域のまちづくりと青少年育成に貢献してまいりました。</p> <p>地域文化を象徴する祭り「やっさいもっさい」の創始と継続的参画</p> <p>1974年に当団体が企画・開催した市民総踊りであり、現在も木更津市最大の市民祭りとして定着しています。発足以来、実行委員会への参画、広報活動、当日の運営協力などを通じ、地域の活性化と一体感の醸成に継続的に貢献しています。</p> <p>文化・交流事業「かずさ音楽祭（旧エバーグリーンコンサート）」の創設1990年の創立25周年記念事業として「夢が森をつくる エバーグリーンコンサート」として始まり、その後「かずさ音楽祭」として地域に根ざした音楽祭の創設に寄与しました。市民が参加・鑑賞できる文化イベントの機会を提供し、地域文化の向上に貢献しました。</p> <p>まちづくりの方向性を探る調査・提言活動</p> <p>2000年には「四市合併を考える」をテーマに、広域的なまちづくりに関する住民アンケートを実施し、地域の将来像についての議論を促進しました。</p> <p>地域が抱える課題に対し、青年経済人の視点から調査・分析を行い、積極的な提言活動を行っています。</p>		

事業名称	かずさ防災キャンプ		
団体名 (構成人数)	一般社団法人かずさ青年会議所(20名)	代表者	春口 有紀

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	261,000		報償費	60,000	講師への謝礼 (30,000円×2名)
自己資金	131,200		会場使用料	240,000	施設利用・宿泊費 等
			印刷製本費	50,000	チラシ・当日配付 資料
			原材料費	20,000	炊き出し用食材 (30名分)
			消耗品費	20,000	ワークショップ備 品
			通信運搬費	2,200	郵送代
合計	392,200		合計	392,200	

<p>事業名称</p>	<p>和太鼓の出前講座及び和太鼓と篠笛による出前公演 ～伝統文化和太鼓講座とお年寄りに元気を～</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>響の杜企画(7名)</p>	<p>代表者</p>	<p>鈴木 淳一</p>
<p>事業の内容</p>	<p>プロの和太鼓奏者と篠笛奏者で市内の福祉施設への慰問演奏。保育園に出向き子供達へ和太鼓を指導し、お客様や保護者の前での演奏披露。</p> <p>コンサートの開催 決まっている訪問先 ●木更津南清苑</p> <p>和太鼓指導及び演奏披露 ●中郷保育園 ●みやまのさくら保育園</p>		
<p>審査基準： 「公益性・実現性」</p>	<p>プロの音楽を実際に聴いて体で感じる事で明日からの活力になればと考えております。実際、昨年度3か所の施設を慰問させていただき、利用者様から直接『明日からのリハビリが頑張れる』とか『涙が出てきた』など労いのお声をいただきました。生の音を聴く事で利用者様の生活の活力につながると感じていいです。また、保育園でも同様、昨年度は4か所慰問演奏で伺いましたが、その後自分の和太鼓教室への問い合わせや体験に足を運んでくださる方もいて、大きな成果だと感じております。今回は前回と違い、見るだけでなく子供達に実際に和太鼓指導から携わり演奏の場を設けて達成感を味わっていただきます。お友達と一緒にひとつの事を仕上げる事で大きな達成感を感じ、日本の伝統文化をさらに身近な物に感じていただければと思っております。伝統文化の後継者育成の意味もありますが、そうでなかったとしても、その経験は他のジャンルにも繋がると信じております。</p>		
<p>事業の必要性と目的</p>	<p>採択決定後は各施設と連絡を取り合い、まず実施日を決定します。福祉施設では利用者様対象に慰問演奏の日程を決めます。保育園では年長さんの園児を対象に指導日及び演奏日程を決め実施いたします。</p>		
<p>スケジュール</p>	<p>審査基準： 「実現性」</p>		
<p>事業の特色</p>	<p>審査基準： 「独創性」</p> <p>普段地域のイベント等に指導チーム等で積極的に参加しておりますが、演奏する楽曲は日本各地の伝統音楽を舞台用にアレンジし取り入れたり、オリジナル楽曲まで多種多様。太鼓演奏も大小様々な大きさの太鼓をドラムセットのように並べ、太鼓独自の音階を作って飽きさせないリズム作りをしております。大きな舞台になると太鼓以外に「講談」「役者」「声明」「殺陣など」ジャンルの違うものを取り入れ、歴史上の人物「宮本武蔵」「伊能忠敬」「千手観音」「秋山真之」などをモチーフに舞台を作り、太鼓を観ながら日本の歴史を感じるような舞台をお送りする事もできます。</p>		
<p>来年度以降の事業展開予定</p>	<p>審査基準： 「発展性・自立性」</p> <p>継続して演奏活動を続けていけるよう弊社で努力していきたいと思っております。実際、予算が減ることでプロの方をお呼びすることは難しいかもしれませんが、今回の出前講座を通じ、事業終了後も和太鼓活動が継続できるように自分が主宰している和太鼓教室の宣伝等もさせていただきます。興味がある方は参加していただき、地域のイベントなどに積極的に出演するなど地域活性化のためにつながる活動ができればと考えております。</p>		
<p>過去の活動実績</p>	<p>【イベント】 木更津花火大会、木更津イオン、木更津舞尊、アクア将棋大会、マザー牧場、ワールド千葉、観音まつり、にっぽん丸お出迎え演奏、高柳さくらまつり、人形感謝祭(高蔵寺)、清川納涼祭、若木町納涼祭、岩根西公民館文化祭、新御堂寺、長楽寺、千葉アクアラインマラソン沿道応援演奏、うまぐたの里、ロマンの森共和国納涼祭</p> <p>【学校関係】 鎌足小学校、真舟小学校、木更津第二小学校、高柳小学校、岩根小学校、畑沢小学校、金田小学校、清川中学校、鎌足中学校、岩根西中学校、富来田中学校、中郷中学校、拓大紅陵高校</p>		

令和8年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 7

事業名称	和太鼓の出前講座及び和太鼓と篠笛による出前公演 ～伝統文化和太鼓講座とお年寄りに元気を～		
団体名 (構成人数)	響の杜企画(7名)	代表者	鈴木 淳一

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		報償費	700,000	外部講師謝礼
自己資金	270,000		賃借料	30,000	リハーサル場所代
			修繕費	20,000	楽器メンテナンス代
			消耗品費	20,000	文房具、用紙代
合計	770,000		合計	770,000	

事業名称	木更津みんなの大運動会～世代を超えて、まちが一つになる日～		
団体名 (構成人数)	ボランティア団体Team-K (20名)	代表者	石原 健也
事業の内容 審査基準： 「公益性・実現性」	<p>本事業は、子どもから高齢者まで誰もが参加できる市民参加型の大運動会を開催するものです。町内・学校・企業・団体の枠を越えたチーム編成により、世代間交流と地域のつながりを促進します。勝敗にこだわらず、安全性と参加しやすさに配慮した競技を通じて、市民の健康増進と木更津市への愛着醸成を図ります。また、競技の間にはダンスや演奏コーナーを設け、会場内外にはキッチンカーや協賛ブースなど市民と企業と文化とスポーツがクロスする一大イベントに発展させていきます。</p>		
事業の必要性と目的 審査基準： 「公益性」	<p>近年、木更津市では文化系イベントや各種フェス等を通じた交流の機会は一定程度確保されています。一方で、世代や立場を越えて市民が一堂に会し、身体を動かしながら一体感を共有できる機会は多くありません。本事業は「運動会」という共通体験を通じて、市民の健康増進を図るとともに、世代間交流と地域のつながりを再構築し、市民が一つになる場を創出することを目的とします。</p>		
スケジュール 審査基準： 「実現性」	<p>2026年5月：イベント告知 2026年6月：実施したい競技のニーズ受付 2026年7月：参加者募集・学校、企業、自治体に宣伝 2026年8月：参加者〆切 2026年9月：リハ 2026年10月：開催本番</p>		
事業の特色 審査基準： 「独創性」	<p>本事業は、Team-Kがこれまで培ってきたイベント企画・運営ノウハウや、アーティスト・地域団体とのコラボレーション実績を活かし、円滑かつ柔軟な運用が可能である点を特色とします。SNSを活用した情報発信により幅広い層への集客を図るとともに、老若男女が集う市民参加型イベントとして発展させ、将来的には木更津市最大級のスポーツイベントとして定着を目指します。文化イベントではなく「運動」を軸に、世代・所属・立場を越えた市民全体が参加し、一体感を共有する大規模イベントは全国的にも事例が少ない取り組みです。</p>		
来年度以降の事業展開予定 審査基準： 「発展性・自立性」	<p>本年度はモデル事業として開催し、参加者数や満足度、運営面の課題を検証します。来年度以降は市内各団体や企業との連携を拡大し、競技・参加規模の拡充を図ります。全国的にも例の少ない「市民が一体となる大運動会」として発展させ、継続開催を通じて木更津市を代表する大規模スポーツイベントとして定着・発信していくことを目指します。</p>		
過去の活動実績	<p>2011年 東日本大震災 被災地支援（継続中） 2013年 all out attack2013 出演：Ken Yokoyama (Hi-STANDARD) /For A Reason 2014年 木更津赤い橋の音楽祭 出演：HAN-KUN (湘南乃風) /MINMIなど 2015年 XJAPAN 横浜アリーナ公演4Days 復興写真展開催 2016年 嵐 復興支援ライブin宮城 復興ブース出展 2022年 かずさ4市全小中学校に16000本の消毒液を寄贈（功労表彰受賞） 2023年 木更津市DX推進ネットワーク本部委員に選出 2025年 レミオロメンバーカル藤巻亮太氏と山中湖クリーン大作戦開催</p>		

事業名称	木更津みんなの大運動会～世代を超えて、まちが一つになる日～		
団体名 (構成人数)	ボランティア団体Team-K (20名)	代表者	石原 健也

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		会場費	200,000	市内施設を終日使用
参加費	300,000		人件費	400,000	警備
協賛	300,000		広告宣伝費	300,000	
観覧チケット	100,000		競技備品・道具	200,000	
企業出展手数料	200,000	各店舗売上の10%	市内循環バス	300,000	高齢者の参加率向上を目的とする
合計	1,400,000		合計	1,400,000	

事業名称	つながるかんでんち		
団体名 (構成人数)	一般社団法人かんでんち(3名)	代表者	矢部 牧子
事業の内容	当法人は乳幼児から高齢者、障がいの有無を問わず誰もが安心できる居場所を提供し、世代を超え交わりの中で、食・体験活動を通じて自分らしく心身共に健康で生活していけることに寄与することを目的とする。		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と 目的	<p>2022年3月より週3日15時～18時日本財団【子ども第三の居場所】にて 助成金を活用させて頂き公益財団法人ちばのWA地域づくり基金と日本財団各自治体と三者協定を締結し拠点運営など団体として活動してきました。</p> <p>多世代の居場所として、乳幼児連れの母子から高齢者の方々や障がいの有無を問わず安心できる居場所作りを目指し、誰も取り残さない工夫を地域の学校の校長先生や、木更津市社会福祉協議会就労支援担当者の方と情報交換をさせて頂いたりしています。</p> <p>地域にある町内会行事のお祭りに参加させて頂くことで地域の方達にも活動内容を知って頂くことで高齢者の単身者の方にも夕食を一緒に食べて頂けるようになりました。みらいラボさんのプロジェクトで木更津クリーン&コネクトや、オーガニックシティにも子ども達と地域の皆さんと参加させて頂き広く皆さんに知ってもらえるきっかけになりました。</p>		
審査基準： 「公益性」			
スケジュール	木更津市西口にある古民家のかんでんちにて、子ども第三の居場所つながるかんでんちを開所しています。毎週月・水・木15時～18時までスタッフと食のボランティアと共に学習支援や近くの鳥居崎公園にて運動したり、親子イベントに参加したりと企画運営をしています。主に小学生対象ですが、乳幼児の親子から高齢者や障がい者の有無を問わず安心できる居場所作りや大人と交流できる環境を整え、今年度は高専生の学生さんと子ども達と一緒にものづくりに関わる活動を始めます。		
審査基準： 「実現性」			
事業の特色	多世代の交流の場を生かし、最近では乳幼児連れで参加する層が増えつつあります。子育て世代の先輩方がたくさんいるので、たくさんの知恵を頂いたり、逆にできないことを手伝ったりとお互いの世代を良い関係で時間を過ごせている居場所です。今年度の特色としては学生世帯、留学生も、ものづくりの時間を通して交じりお互いの生き方や知恵をだしあいながら一人ひとり自分らしく生きることの大切さを学びあえる時間をつくっていきたいと考えています。		
審査基準： 「独創性」			
来年度以降の 事業展開予定	古いものの良さも知って頂くために、着物を着る体験や地域の文化やお祭りにも参加することで日本人も多く再発見があると思います。 多世代の環境のなかで、子ども達を中心にコミュニケーションの大切さも感じてほしいと考えます。		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	2022年3月より一般社団法人かんでんちを設立してから日本財団・ちばのWA地域づくり基金の伴走を終えて4年。昨年より自走活動を始め今年度5年目を迎えます。 できることからコツコツと活動を始め、皆さんからのクチコミと日本テレビeveryさんからの全国放送により活動内容を知って頂き大きな反響と応援をいただきました。子ども達の利用者も増え地域の方達にも活動内容を知って頂いていることが何よりも嬉しいことです。		

事業名称	つながるかんでんち		
団体名 (構成人数)	一般社団法人かんでんち(3名)	代表者	矢部 牧子

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		報償費	586,000	食事ボランティア スタッフ
会費 (利用者)	568,000		消耗品費	214,000	事業に使用するク レヨン、折り紙、 本、文具等
利用者以外の食事 提供費用	290,000		印刷製本費	6,000	チラシ・パンフ レット印刷費用
自己資金	116,000		改修費	350,000	事業に使用する台 所の改修費用
			原材料費	318,000	子供たちに提供す る食事の材料
合計	1,474,000		合計	1,474,000	

<p>事業名称</p>	<p>木更津交流会</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>木更津交流会(3名)</p>	<p>代表者</p>	<p>石束 貴</p>
<p>事業の内容</p> <p>審査基準： 「公益性・実現性」</p>	<p>木更津交流会は、地域内外の多様な人々が集い、交流を通じて相互理解を深め、地域との関わりやつながりを広げることを目的とした交流イベントを企画・運営する事業である。</p>		
<p>事業の必要性と目的</p> <p>審査基準： 「公益性」</p>	<p>木更津交流会は、地域住民の交流を促進し、多様な属性の人々が知恵や人脈、資源を得ることを目的とする。通常の市民活動は特定の属性の中での交流が中心となるが、木更津交流会では世代や職業を超えたつながりを生み、まちづくりや社会教育の推進に貢献している。</p> <p>交流会を通じて生まれた取り組みには以下がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくり団体の活動広報、人材募集 ・ 木更津駅スペースの活用企画 ・ 地域活性化イベント（ゲーム、スタンプラリー等） ・ スポーツクラブと市内企業の提携 ・ 子ども支援事業の広告制作 ・ ウクライナ紛争・能登半島地震への募金支援 <p>コロナ禍で活動が断続的になったが、2024年度以降は夏と冬の年2回、定期的に行える体制を整備し、さらなる発展を目指す</p>		
<p>スケジュール</p> <p>審査基準： 「実現性」</p>	<p>【第1回交流会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2026年7月 準備 ・ 2026年8月 実施 <p>【第2回交流会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2026年12月 準備 ・ 2027年 1月 実施 		
<p>事業の特色</p> <p>審査基準： 「独創性」</p>	<p>これまでの交流会では、以下のような企画を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木更津クイズ（古い写真を見て回答） ・みんなで踊る「やっさいもっさい」 ・木更津大航海地図（地域のお店情報を記入） ・じゃんけん大会、ビンゴ大会（協賛品のプレゼント） ・1分間スピーチ（自己PRタイム） <p>これにより、参加者間の交流を促進し、交流会後のビジネスや生活の発展につなげている。</p> <p>【アンケート分析結果（2025年3月実施）】</p> <p>最新のアンケート結果を分析したところ、木更津交流会の強みと今後の改善点が明確に可視化された。</p> <p>まず、会場・飲食・費用に関する評価は極めて高い水準にある。「会場の広さ」（平均9.25点）、「会費の金額」（平均9.13点）、「料理の味」（平均9.13点）、「料理の量・ボリューム」（平均9.08点）といった項目はいずれも9点前後を記録しており、会場選定および飲食店との連携が参加者満足度に大きく寄与していることが確認された。また、「会場の雰囲気・居心地」（平均8.92点）、「会場としての適合性」（平均8.83点）、「司会・進行」（平均8.67点）も高評価であり、運営基盤そのものが安定して評価されていることが読み取れる。</p> <p>一方で、相対的に評価が低かったのはネットワーキング施策に関する項目である。「新しい繋がりやマッチング」（平均7.75点）、「自己紹介カードの記入・掲示」（平均7.38点）、「みんなでやっさいもっさいを踊ること」（平均6.71点）は、全体平均と比較して低い傾向が見られた。特に「やっさいもっさい」は唯一7点を下回っており、参加の任意性やプログラム構成について再検討の余地があることが示唆された。</p> <p>次に、参加者が交流会に求めている価値について見ると、「重視するポイント」の最多回答は「新しい繋がりやマッチングが見つかる」（20回答）であり、「木更津や周辺地域を盛り上げられる」（16回答）がこれに続いた。さらに「自分の知らない魅力的な情報が手に入る」（13回答）も上位に入り、参加者が単なる懇親ではなく、人脈形成・地域貢献・情報収集を主目的として参加していることが明確になった。</p>		

事業名称	木更津交流会		
団体名 (構成人数)	木更津交流会(3名)	代表者	石束 貴
事業の特色 審査基準： 「独創性」	<p>また、「参加を決めたきっかけ」として最も多かったのは「友人・知人のお誘い」(16回答)であり、X (旧Twitter)、Instagram、ThreadsなどのSNS経由の合計回答数を上回った。この結果から、既存参加者による口コミや紹介が、最も信頼性が高く効果的な集客手段であることが確認された。一方で、SNSは認知拡大の補完的な役割として有効であり、今後も継続的な発信が重要である。</p> <p>これらの分析結果を踏まえ、今後は特にネットワーキング施策の改善に重点を置く方針とする。具体的には、自己紹介カードの事前共有や、カードを活用した仕掛けの導入、テーマ別交流やグループ分けなど、参加者が目的とする「繋がり」をより実感できる設計への進化が求められる。また、やさしいもっさい等の全体参加型企画については、完全任意化や代替プログラムの検討を行い、参加者の多様な価値観に配慮した運営を進めていく。</p> <p>以上のことから、木更津交流会は、会場・運営基盤という強固な土台を持ちながら、ネットワーキング設計を進化させることで、さらに高い公益性と満足度を実現できる段階にある事業であると評価できる。</p>		
来年度以降の事業展開予定 審査基準： 「発展性・自立性」	<p>本事業を通じて最も顕著に見られた成果は、「交流の質」と「地域とのつながり」の両立が図られた点にある。従来のネットワーキングイベントでは、特定の業種・団体による閉じた交流に留まることが多いが、木更津交流会では異業種・異世代間の交流が自然発生的に生まれており、地域における関係人口の拡大と、新たなコミュニティの形成が進んでいる。</p> <p>参加者の声として「普段出会えない方と深く話せた」「再会をきっかけに新たなプロジェクトが始まった」「SNS上だけで繋がっていた方と初対面できた」といった具体的な交流成果が報告された。さらに、「その場での出会いが二次会や事業提携につながった」といった、実質的なコラボレーションの事例も多数確認されている。</p> <p>また、交流会でのプログラム設計において、ビジネス色をあえて控えることで、「移住者」や「これから木更津に関わりたい人」でも参加しやすい環境が整備された。これにより、市民のみならず首都圏からの参加者も増加し、「木更津という土地に縁を感じて関わる人」が増えてきている。これは地域振興の観点から見ても重要な成果であり、今後、木更津への定住促進や移住希望者とのマッチングといった波及効果も期待される。</p> <p>アンケート結果からも、こうした交流の価値が明確に読み取れる。たとえば「交流会の総合的な満足度」については、10点満点中8点以上をつけた参加者が約7割を占め、「新しいつながりやマッチング」の面でも10点評価が最も多く、地域の垣根を越えた人的ネットワーク形成に対する満足度が高いことが示された。また、「料理の量・質」「会場の広さ」「司会・進行」など運営面でも8点以上の評価が多数を占め、参加者の体験満足度が総合的に高いことが確認できる。</p> <p>特筆すべき点として、2025年の3月開催時には、参加者の半数以上が木更津にルーツを持たない移住者属性であった。こうした参加を通じて、既存住民と新規住民のコミュニティミックスが実現し、地域の多様性とつながりを象徴する交流の場として、大きな成果を上げたといえる。また、会場および協力参加飲食店に対しても、来場者による集客導線が生まれ、地域経済への波及効果も確認された。</p> <p>さらに今年度は、写真や動画の記録にも注力し、SNSを通じてより多くの方々に活動を知ってもらうきっかけをつくることができた。視覚的な記録と発信による拡散力の向上は、交流会の認知と関心度の向上にもつながった。</p> <p>反省点としては、当初は地域外からまちづくりの知見をもつ外部講師を招いて講演を行う計画であったが、実行委員内での話し合いの結果、地元の方々がより目立つ施策を優先すべきという判断となり、講師招聘は見送られた。今後は、地元の活動家やスポーツチームなどにスポットを当てた場づくりを推進し、さらなる交流と地域活性化につなげていきたい。</p>		
過去の活動実績	<p>2022.6 舵輪にて交流会実施 (約100名参加)</p> <p>2023.2 ワシントンホテルにて交流会実施 (約60名参加)</p> <p>2024.1 舵輪にて交流会実施 (約80名参加)</p> <p>2024.9 グランポート木更津にて交流会実施 (約60名参加)</p> <p>2025.3 中国料理東洋にて交流会実施予定 (約70名参加)</p> <p>2025.11 舵輪にて交流会実施 (約60名参加)</p> <p>2026.3 木更津市内にて交流会実施予定 (約70名参加予定)</p>		

事業名称	木更津交流会		
団体名 (構成人数)	木更津交流会(3名)	代表者	石束 貴

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		使用料・賃借料	200,000	会場使用料、機器レンタル
参加料	300,000	2,000円/人	印刷製本費	150,000	チラシ、ポスター
			報償費	200,000	外部業者、協力者への謝礼
			消耗品費	50,000	参加者用名札、アンケート用紙、クリアファイル、掲示用方眼紙等
			広報費	200,000	ホームページ制作
合計	800,000		合計	800,000	

<p>事業名称</p>	<p>木更津発 子供の夢実現・成功体験創出プロジェクト</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>株式会社C-PROエンターテインメント (4名)</p>	<p>代表者</p>	<p>茂木 千明</p>
<p>事業の内容</p> <p>審査基準： 「公益性・実現性」</p>	<p>本事業は、結成13周年を迎える木更津市公認「木更津ふるさと応援団」のC-Styleが、地元・木更津市民会館を舞台に、市民と共に「夢を追える街・木更津」を体現・発信する多世代交流型の地域活性化プロジェクトである。</p> <p>○公演の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日・場所：2026年4月18日(土) 木更津市民会館 中ホール ・時間：開場15時30分 開演16時30分 ・料金：3,500円(税込) ・主催：株式会社C-PROエンターテインメント 		
<p>事業の必要性と目的</p> <p>審査基準： 「公益性」</p>	<p>単なる音楽公演ではなく、市公認団体の発信力を生かした「シビックプライドの醸成」と「次世代育成」を両立させる協働モデルを構築する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 青少年の「夢」と「キャリア」を育む協働プログラム <ul style="list-style-type: none"> ・「木更津から世界へ！」のロールモデル提示：小学6年生から活動を始めたメンバーの歩みを、「地元で夢を叶える」実例として提示する。 ・地元キッズダンサー100名との共演：過去の成功実績(2023年等)に基づき、市内から公募した子供たちがプロと同じ舞台に立つ「成功体験」の場を創出し、自己肯定感を育む。 2. 市の重点施策と連動した社会貢献ブース・演出(公益性の多角化) <ul style="list-style-type: none"> 【教育・福祉】 いじめ反対運動の拡大：「ピンクシャツデー千葉」のメッセージを公演テーマに据え、思いやりのあるまちづくりを啓発する。 【環境】 「オーガニックシティ」の実践：ゴミ拾いSNS「ピリカ」活用や会場での「ペットボトル水平リサイクル」を促す教育展示を併設する。 【経済】 地域通貨「アクアコイン」の普及：物販・周辺店舗での決済体験促進。キャッシュレス化を通じた地域経済の循環を視覚化する。 【文化】 伝統の継承：「やっさいもっさい」の踊りをプログラムに導入し、郷土文化への親しみを次世代へ繋ぐ。 3. 協働による持続可能な体制(自立性の証明) <ul style="list-style-type: none"> ・公式ファンクラブ、協力企業との連携による自走体制 ・市と本団体がそれぞれの役割(広報協力とコンテンツ提供)を果たすことで、行政だけではリーチできない若年層や子育て世代への「行政施策の浸透」を実現する。 		

<p>事業名称</p>	<p>木更津発 子供の夢実現・成功体験創出プロジェクト</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>株式会社C-PROエンターテインメント (4名)</p>	<p>代表者</p>	<p>茂木 千明</p>
<p>スケジュール</p>	<p>○2月下旬：キッズダンサー公募開始（自己資金による準備） ・チラシ、SNSを通じて、市内の子供たち（小中高生）を対象に「夢の共演」メンバーを広く公募する。 ・地元で夢を追う大切さを伝える公演ポスター掲示する</p> <p>○3月中旬～3月31日：基礎練習・選考会 ・3月14日の選考会にて本事業の公益性を説明し、承認を得る。 ・並行して、公募した子供たちの基礎練習を開始。C-Styleメンバー自らが直接指導にあたり、プロの意識を伝授する。</p> <p>○4月1日～4月上旬：最終練習 ・演出・振付の最終確認</p> <p>○4月17日（金）：全体リハーサル ・子供たちとプロのスタッフによる合同リハーサルを実施 ・舞台裏見学や職業体験プログラムを通じ、エンターテインメントの現場を学ぶ教育的機会を設ける。</p> <p>○4月18日（土）：本番公演 ・「夢の共演ステージ」披露</p> <p>○5月：実績報告 ・事業の成果（参加した子供たちの感想や地域経済への波及効果）をまとめ、実績報告書を提出</p>		
<p>事業の特色</p>	<p>本事業は、木更津ふるさと応援団 C-Style が、これまでのエンターテインメント活動で培った資源を、木更津市の「次世代育成」と「シビックプライド醸成」に全振りする、極めて独自性の高い試みである。</p> <p>1. C-Style は「木更津ふるさと応援団」という公的信頼に基づくパートナーシップに委嘱を受けた 「木更津市公認アイドル」であり、これまでも市のポイ捨て禁止ポスターモデル、ペットボトルリサイクル動画、ゴミ拾い SNS「ピリカ」の案内動画への出演など、行政施策を若者に届けるメッセンジャーとしての役割を担い続けてきた。本公演は、この公的な信頼関係を基盤とした「行政・民間・市民」の三位一体による協働事業。</p> <p>2. 圧倒的な「市民参加型」の舞台演出 単なる観覧型イベントではなく、市民が主役となる場を創出する。 過去の周年公演や「PARK BAY FESTIVAL」では、市内から公募した 100 名を超えるキッズダンサーとステージを共にしてきた実績がある。13 周年公演においても、地元の子供たちが「プロと同じ視点」で舞台に立ち、地元から夢を追うことの価値を体感できる「成功体験の場」として機能させる。</p> <p>3. 「ヤンキー × 社会貢献」という独自のギャップによる啓発効果 「木更津発・ヤンキーアイドル」という強烈なアイデンティティを逆手に取り、いじめ反対運動（ピンクシャツデー）や地域通貨（アクアコイン）の普及、環境美化活動など、一見「真面目すぎる」公的な課題を、若年層が自分事として捉えられる魅力的なコンテンツに昇華させている。この高いリーチ力と「ヤンキーなのに真面目」という独自のポジショニングは、他の団体には模倣できない本事業最大の特色である。</p>		

事業名称	木更津発 子供の夢実現・成功体験創出プロジェクト		
団体名 (構成人数)	株式会社C-PROエンターテインメント (4名)	代表者	茂木 千明
来年度以降の 事業展開予定	<p>本事業は、結成13周年記念公演を単発のイベントで終わらせず、次世代を担う子供たちが地元・木更津に誇りを持ち、自らの夢を育むための「持続可能な仕組み」へと昇華させる。支援終了後を見据えた展開は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 継続的な表現の場の提供（発展性） 本公演で実施する「キッズダンサーとの共演」や「舞台裏職業体験」を、様々な地域イベントと連動させ、年間を通じた育成プログラムとして定着させる。本公演を「目標の舞台」とし、そこへ至る練習や交流の場を日常的に提供することで、一時的な刺激ではない継続的な青少年健全育成事業へと発展させる。 「木更津ふるさと応援団」としての社会的使命の継承（持続性） メンバー 2人を正社員として雇用し、厚生年金等の社会保障を整えている弊社の安定した雇用体制を活かし、所属アーティストが「職業」として地域貢献に専念できる環境を維持する。これにより、公的活動を、世代交代を経ても「木更津の文化」として半永久的に継承していく仕組みを構築する。 木更津を「スターの生産工場」へ 将来的に「木更津から有名人が生まれる生産工場」となることを目指し、本事業を通じて蓄積したノウハウを、市内の学校教育や生涯学習の場へ還元していく。勉強だけでなく、一つのことを成し遂げる大切さを教えるカリキュラムを提案し、木更津が「子供たちが地元から世界を目指せる夢の出発点」として定着するまで活動を継続する。 		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	<p>株式会社 C-PRO エンターテインメントおよび同社がプロデュースする C-Style は、「木更津から世界へ！」を合言葉に、13年間にわたり地域に根ざした活動を継続している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 公的な委嘱および PR 活動 <ul style="list-style-type: none"> 木更津ふるさと応援団：木更津市より委嘱を受け、公認アイドルとして市の魅力を国内外へ発信。 ちばアクアラインマラソン 2024 PR サポーター：木更津市より委嘱。 一日署長等：木更津警察署「一日警察官」、木更津海上保安署「一日海上保安署長・一日巡視船長」等を歴任。 社会貢献・公益活動 <ul style="list-style-type: none"> いじめ反対運動（ピンクシャツデー千葉）：理事（代表・茂木）およびスペシャルサポーター（C-Style）を務め、長年にわたり青少年の健全育成と啓発活動を継続。 地域美化活動：木更津市内での継続的なゴミ拾い活動を実施し、環境美化意識の向上を牽引。 音楽・芸能活動における評価 <ul style="list-style-type: none"> 受賞歴：「OTONOVA2018」Voicy 賞・Fresh! 賞、「Mudia2019」グランプリなど ご当地アイドル殿堂入り：2023年4月 メディア出演：『プラタモリ』（NHK）、『中居くん決めて！』（TBS）など。 		

令和8年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 11

事業名称	木更津発 子供の夢実現・成功体験創出プロジェクト		
団体名 (構成人数)	株式会社C-PROエンターテインメント (4名)	代表者	茂木 千明

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		使用料・賃借料	250,000	会場使用料等
事業収入 (チケット 売上)	500,000		照明費用	500,000	
協賛金収入	200,000		音響費用	150,000	
物販収入	200,000		大道具使用	350,000	ランウェイ、ス ロープ等
			印刷製本費	50,000	
			報償費	100,000	司会、殺陣団体等
合計	1,400,000		合計	1,400,000	